

人もうたげいでしたが、病気でねこんでいました。そのことを聞いた高木源四郎たかぎげんしろうは、さつそく、孫をつれて小田橋のところの家に見舞いに行きました。見舞いに来てくれたことをこの友人は大変よろこんで玄如節げんしよぶしで次のようにうたいました。

ながい常橋たかぎでかけて

おいでくださる　ごしんせつ

常橋は、ぶっかけ橋よりは程度のよいもので、やはり板をかけてあつたところを渡るものでした。